文化財をたずねて

家島町めぐり

交通案内

姫路駅から神姫バスで姫路港まで行き、各島までの定期船に乗船（真浦・宮まで約二五分、坊勢まで約三〇分）

コース案内

【真浦・宮】

■起点・真浦港→（一〇〇ｍ）→どんがめっさん→（一〇〇ｍ）→真浦神社→（三〇〇ｍ）→城山公園・間浦古郭→（七〇〇ｍ）→家島公民館→（五〇〇ｍ）→赤坂清水・櫻谷雪景→（九〇〇ｍ）→宮浦神社・白髭霊祀→（一五〇〇ｍ）→家島神社・天満霊樹→（五〇〇ｍ）→監館眺望→（九〇〇ｍ）→チンカンドー古墳→（八〇〇ｍ）→宮浦夜泊→（三〇〇ｍ）→終点・宮港

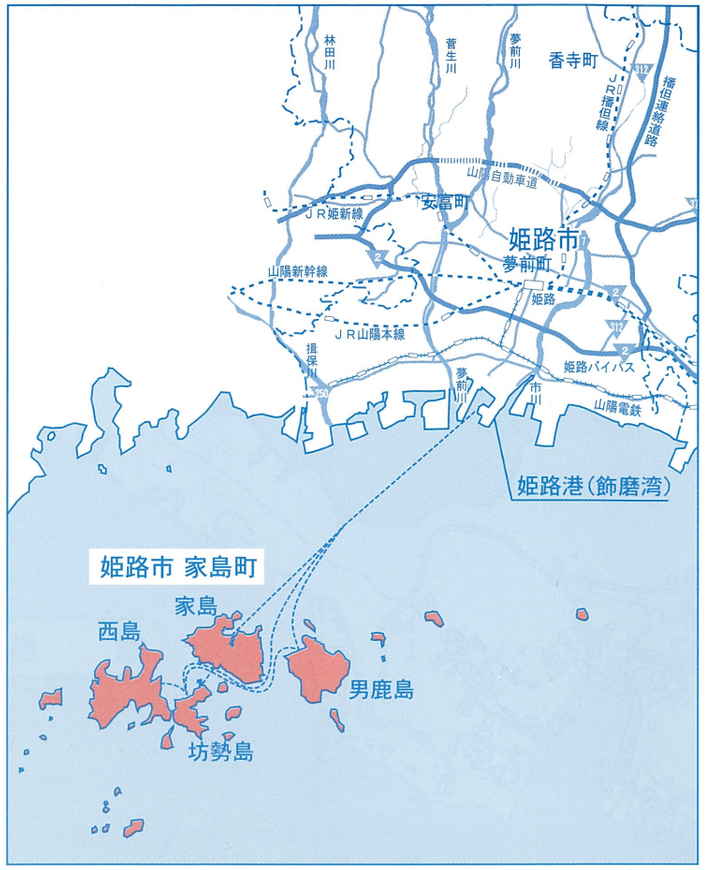
【坊勢】

■起点・奈座港→（二〇〇ｍ）→海神社→（六〇〇ｍ）→坊勢寺跡→（三〇〇ｍ）→坊勢恵美酒神社→（二三〇〇ｍ）→波の化石（坊勢中学校）→（二〇〇〇ｍ）→終点・奈座港

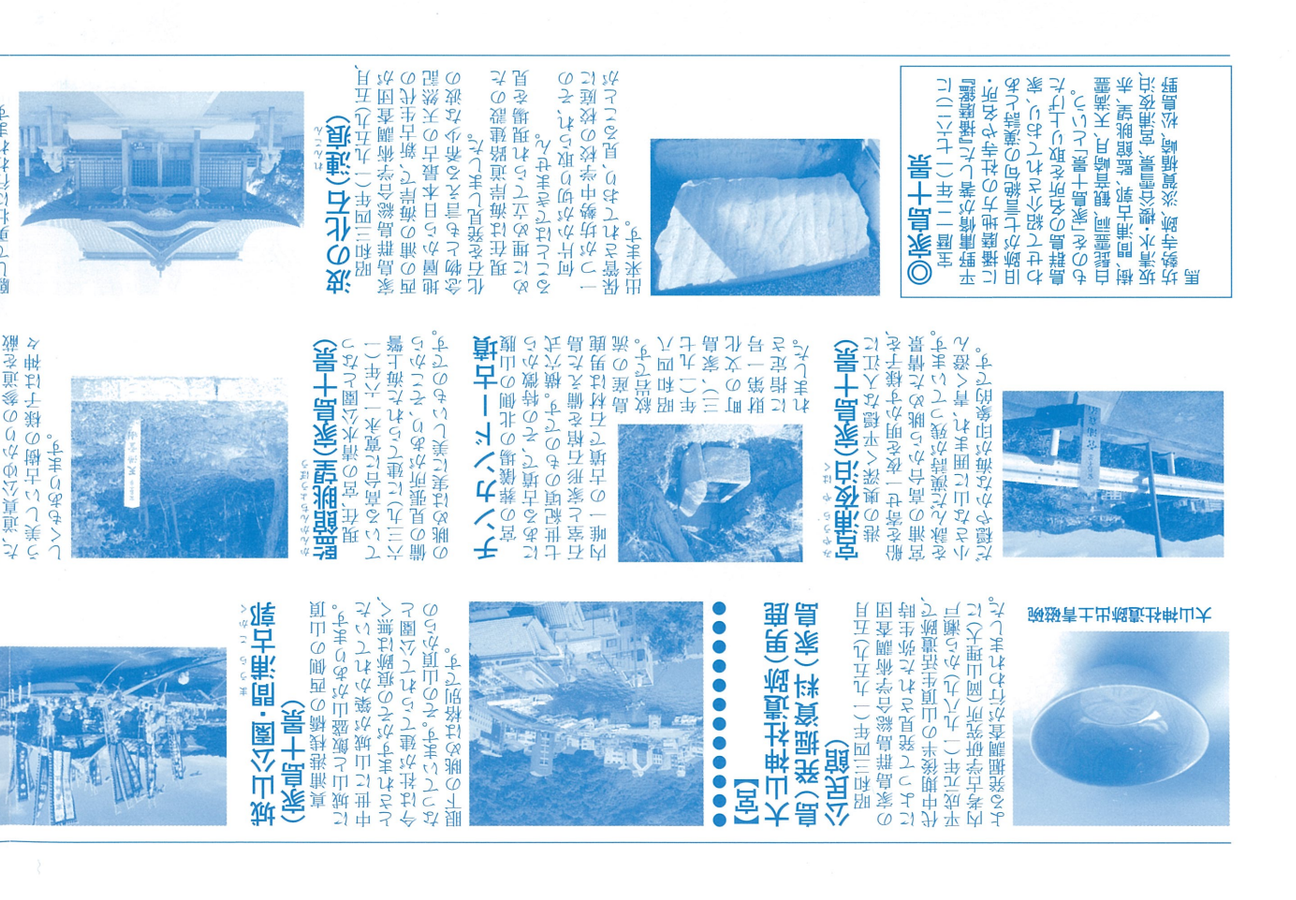
※文化財の見学はマナーを守りましょう

表紙説明

家島諸島（東から）



平成25年3月1日発行　（姫路市教育委員会　姫路市文化財保護協会　発行）



◎家島十景

宝暦一二年（一七六二）に平野庸脩が著した『播磨鑑』に播磨地方の社寺や名所・旧跡が上言絶句の漢詩で紹介されたのち、家島群の名所を取り上げたものを、「家島十景」という。

白髭霊祠、観音崎月、天満霊樹、間浦望山、蓮館眺望、宮浦夜泊、坂清水雪景、櫻谷雪景、宮浦夜泊、松島野馬、坊勢寺跡、淡路橋、城山公園

波の化石（波の連）

昭和三四年（一九五九）五月、家島群島総合学術調査団が、西の浦の海岸で、新石器時代の地層のなかから日本最古の天然記念物ともいえる化石を発見しました。現在は海岸道路のため埋め立てられ現場を見ることはできません。

何片かが切り取られ、その一つが中学校の校庭に保管されており、見ることができます。

坊勢寺跡（家島十景）

ぼうせいじあと

奈座港の北の山頂に、坊勢寺の跡があります。現在は坊勢島民の氏神です。現在は岬の根元を切り取られている漁船の出入口となっています。山頂の社に行く参道は、昔は参道の石段でしたが、現在は崩れてしまいました。

坊勢恵美酒神社

ぼうせえびすさけじんじゃ

奈座港の東の山頂にあります。現在は坊勢島民の氏神です。現在は岬の根元を切り取られている漁船の出入口となっています。山頂の社に行く参道は、昔は参道の石段でしたが、現在は崩れてしまいました。

頂の社に行く参道は、昔は参道の石段でしたが、現在は崩れてしまいました。

夏・秋の宵合や竹割りの祭りの中行事は、豊漁と安全を祈願して勇壮に行われます。

坊勢海水浴場

ぼうせいかいすいよくじょう

坊勢海水浴場は、遠浅で、海の透明度が高く、海水浴に適しています。

坊勢島ドルフィンクラブ

ぼうせいとうどるふぃんくらぶ

坊勢島ドルフィンクラブは、坊勢海水浴場の海岸を拠点にして、ドルフィンウォッチングやシーカヤックなどを楽しんでいます。

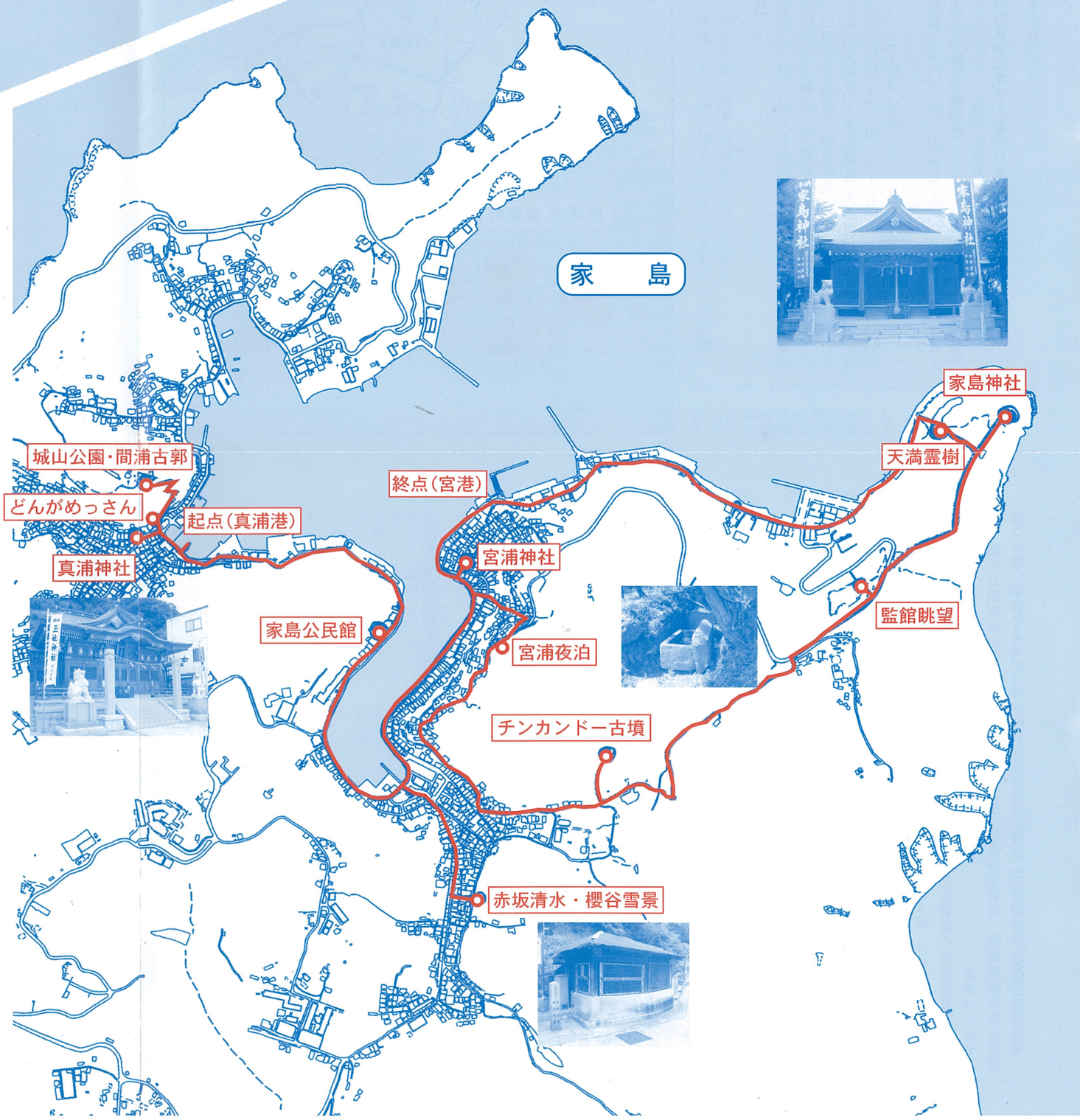
真浦の獅子舞

毎年七月二四日・二五日に行われる家島神社の天神祭り。真浦の獅子舞は、「ばんどり」と呼ばれる獅子頭を中心に、「ばんどり」の前に「ばんどり」を持つ「ばんどり」の前に「ばんどり」を持つ「ばんどり」の前に「ばんどり」を持つ

文化財をたずねて

家島町めぐり

家島諸島全図

坊勢島

家島